

第7回

『科学・技術とヒューマニティ』

懇話会テーマ

動物行動学を通して人間を知る

特別講話：

村上陽一郎先生「ウイルスとの闘い」

毎年好評を博しております「科学・技術とヒューマニティ」セミナーも、おかげさまで第7回を開催することになりました。

今回のセミナー中の懇話会では、「動物行動学を通して人間を知る」というテーマのもと、第1日は、東京大学大学院総合文化研究科教授・岡ノ谷 一夫 氏、第2日は、総合研究大学院大学学長・長谷川 真理子をお迎えし、ご講話いただく予定です。

また、今般の新型コロナウィルス禍を受けて、村上陽一郎先生に人間とウイルスとの闘いについて特別講話をお願いいたしました。

セッションのテキストを含めて、広く科学・技術に興味・関心のある方が対象となります。専門、専門外に関わらず、ぜひともご参加をご検討下さいますようお願い申し上げます。



プログラム・ディレクター 兼 モデレーター

村上陽一郎 先生

東京大学名誉教授（科学史家、科学哲学者）
一般社団法人日本アスペン研究所副理事長

【開催日】 2020年10月16日（金）～10月18日（日）

【会場】 クロス・ウェーブ府中

〒183-0044 東京都府中市日鋼町 1-40

<http://x-wave.orix.co.jp/fuchu/>

【科学・技術とヒューマニティ・セミナーの企画の背景】

「エグゼクティブ・セミナー」、「ヤング・エグゼクティブ・セミナー」の卒業生から、「古典に学ぶ」対話の次の段階を求める声も多く聞かれます。本セミナーは、そのような皆さまからの要望に応えると共に、過去のアスペン・セミナーに参加しておられなくても科学・技術の意思決定に関わる立場の方々を意識して構成した全く新しいセミナーです。

【プログラム】（予定）

	1 日目 10月16日(金)	2 日目 10月17日(土)	3 日目 10月18日(日)
午前 の部		8:30~12:00 セッションⅡ 「デモクラシー」	8:30~12:00 セッションⅢ 「科学・技術と社会」
	11:00~12:20 オープニング・セッション		
午後 の部	13:00~16:30 セッションⅠ 「ヒューマニティ」	13:00~14:30 特別講話：「ウイルスとの闘い」 14:30~16:30 自主研修	13:00~15:30 総括セッション
	16:50~18:50 懇話会Ⅰ	16:30~18:30 懇話会Ⅱ	
	19:00~20:00 夕 食	19:00~20:00 夕 食	

※Webに掲載しておりますプログラムと若干異なりますが、新型コロナウイルス感染防止対策等に鑑み、2020年度は上記のような内容となります。ご了承ください。

【第7回の展望】

西欧的な思考枠では、ユダヤ・キリスト教の宗教上の影響もあって、人間と他の生物との間の距離は、極めて大きい。では日本の伝統では、という問いを立ててみると、確かに『古事記』以来、自然のすべてに「神」を見出し、また高天原の神々と人間とはおよそ区別がつかないように見えるが、しかし一方に＜万物の霊長＞観もあって、確固たる動物観、人間観が確立されてこなかった憾みがある。そんな中で、1960年代、日本の「サル学」が世界の注目を集め始めた。動物の研究に当たって、西欧の研究者は、対象を捕まえて、数字を当て鰻して放ち、恰も顕微鏡で細菌を検鏡するような姿勢で観測するのに反して、日本の学者は、一頭ずつ「弁慶」だの「義経」だの人名を与えることで、サルの社会を人間化して解釈しようとする姿勢で臨み、独自の成果を上げている。そんな評価が広まったからである。その後西欧にもそうした＜日本式＞の研究

者も現れたが、現在の動物行動学は、更に進んでいる。端的な一つの判り易い例を挙げれば、現在日本を代表する研究者の多くは、人間以外の動物を、「一頭」、「二頭」など（まして「一匹」、「二匹」は論外）とは呼ばず、「雄」、「雌」とも言わない、すべて「一人」、「二人」、「男」、「女」であり、動物を人間を通して観ることを越えて、人間を動物を通して観る、という境地を獲得している。そうした境地は、行動学を離れて、生命科学の立場に立っても、チンパンジーとヒトとのDNAの重なりは、98パーセントにも及ぶという知見にも裏打ちされる。今回は、そうした動物行動学の最前線から懇話会を構成し、テキストもそうした視点から多少組み替えて、動物と人間との新しい関係を探ろうとするものである。

（村上 陽一郎 先生 記）

【懇話会 I】

講演者： 岡ノ谷 一夫 氏

（東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻生命環境科学系認知行動科学講座 教授）



1959年栃木県足利市に生まれる。動物と模型飛行機が好きな少年時代を過ごし、栃木県立足利高校（男子校）を卒業。獣医になるという夢もあったが、浪人中に動物行動学という学問があることを知り、それに近い文科系の学問として、動物心理学が学べる慶応義塾大学文学部に進学。在学中に科学史の村上陽一郎先生の講義、言語学の西山佑司先生の講義にも触れ、学問への憧憬はいよいよ強くなった。鳥類の聴覚の研究を極めるべく、1983年米国メリーランド大学大学院に留学。1989年にPh.Dを取得。博士研究員として、神経科学、生態学、生理心理学の分野で研究を行った。1994年千葉大学文学部助教授、2004年理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー、2011年東京大学教養学部教授と、文系と理系の間を彷徨い、言語の生物学的起源の研究に至る。現在、文部科学省新学術領域「共創言語進化」代表を兼務。著書として「さえずり言語起源論」、「ハダカデバネズミ」（以上、岩波科学ライブラリ）、「言葉はなぜ生まれたのか」（文藝春秋）、「つながりの進化生物学」（朝日出版社）、「脳に心が読めるか？」（青土社）など。小説家の小川洋子氏との共著で「言葉の誕生を科学する」、政治学者の牧原出氏、ノンフィクション作家の梯久美子氏との共著で「本棚から読む平成史」がある。趣味は撥弦楽器によるルネッサンス音楽の演奏。

講演題目： 「言語の生物学的起源とコミュニケーションの未来」

要旨： 言語は組み合わせによって無限の意味を表現できる媒体である。人間は言語を手にする事で文明を構築したが、同時に地球全体を破壊しかねないような力も持ってしまった。言語は生物進化の中からどのように生まれてきたのか。この講演では、動物の情動コミュニケーションと道具使用行動が組み合わさって言語が創発したという仮説を、多様な動物の例を示しながら説明する。情動的コミュニケーションとして、マウスやラットの超音波音声、小鳥のさえずり学

習、テナガザルの歌等を紹介する。道具使用として、ラットやサルを使った道具使用訓練、カラスの自然場面での道具使用を紹介する。人間がこれらの能力をどう統合して言語に至ったのか、言語の過去を考えるのと並行して、人工知能を含んだコミュニティで言語がどう変わっていくのかも考えたい。

【懇話会 II】



講演者： 長谷川 眞理子 氏（総合研究大学院大学 学長）

理学博士。東京生まれ。

1976年東京大学理学部生物学科卒業、80～82年タンザニア野生動物局に勤務、83年東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了、東京大学理学部生物学科人類学教室助手、英ケンブリッジ大学研究員、専修大学助教授・教授、米イェール大学人類学部客員准教授、早稲田大学政経学部教授を経る。総合研究大学院大学先導科学研究科教授、理事・副学長などを経て、2017年から現職。

専門は、行動生態学、自然人類学。野生のチンパンジー、英国のダマジカ、野生ヒツジ、スリランカのクジャクなどの研究を続け、最近は、人間の進化と適応の研究を行っている。

日本人間行動進化学会会長。元国家公安委員会委員。

1997年 Human Behavior and Evolution Society Best Poster Award、2001年 日本進化学会教育啓蒙賞、2012年 日本動物行動学会日高賞 受賞

『クジャクの雄はなぜ美しい？増補版』（紀伊國屋書店）、『進化とは何だろうか』（岩波ジュニア新書）、『ダーウィンの足跡を訪ねて』（集英社）、『世界は美しくて不思議に満ちている』（青土社）、『モノ申す人類学』（青土社）などの著書、『人間の由来（上）（下）（チャールズ・ダーウィン著）』（講談社学術文庫）、『ダーウィンの種の起源（ジャネット・ブラウン著）』（ポプラ社）など訳書多数。

講演題目： 「動物行動学から進化心理学へ」

要旨： 1973年のノーベル賞受賞者の一人であるニコ・ティンバーゲンは、行動を引き起こす至近要因、行動の機能である究極要因、行動の発達要因と系統進化要因を分けることで、行動研究のさまざまな側面を体系的に関連づけた。ヒトの行動と心理を進化の視点から研究する進化心理学は、4つの「なぜ」を軸におくことにより、擬人主義を排し、また、ヒトの行動の生物学的基盤と文化の関係も解きほぐしていける可能性を示している。

【特別講話】

講演者： 村上陽一郎 先生

1936年東京生まれ。東京大学教養学部教養学科（科学史科学哲学分科）卒。東京大学教授、国際基督教大学教授などを経て、東京大学名誉教授、国際基督教大学名誉教授。著書『新しい科学論』『奇跡を考える』『近代科学を超えて』『科学の現在を問う』『ペスト大流行ーヨーロッパ中世の崩壊ー』ほか多数。



講演題目： 「ウイルスとの闘い」

要旨： ウィルスは生き物が退化したもの、という解釈が成り立つ。それ自身では「生きる」ことができないからだ。生き物の基本である細胞のなかに入り込んで、そのシステムを利用することで、初めて、生き物の特徴の一つ、自己複製能力を獲得する。病原体としてのウィルスは、従ってヒトだけでなく、他の生物にも関わる。人間に最も身近な例としては狂犬病ウィルスがそれだ。他にも鳥インフルエンザ、豚コレラなどが典型的で、豚コレラは先ずヒトに感染はしないが、鳥インフルエンザの場合は、危険がないわけではないし、ヒトと感染を共有するものも少なくない。今回のCOVID-19もコウモリからの感染の疑いが濃厚だし、SARSはハクビシンと共有したと言われる。人獣共通感染症が数多いことも、ヒトと他の生き物との距離が大きくないことの証拠かもしれない。それにしても人間と病原ウィルスとの闘いは、HIV以降、SARS、MERS、そしてCOVID-19と新しい段階に入った感がある。

【モデレーター】

村上 陽一郎 先生（東京大学名誉教授）

渋谷 治美 先生（埼玉大学名誉教授）

【リソースパーソン】

藤山 知彦 氏（科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー）



渋谷先生



藤山氏

【テキスト】

カント『啓蒙とは何か』／ホワイト『機械と神』／シャルガフ『ヘラクレイトスの火』／プラトン『国家』／トクヴィル『アメリカのデモクラシー』／オルテガ『大衆の反逆』より「専門家の野蛮性」／福沢諭吉『学者の職分を論ず』／ウェーバー『職業としての政治／職業としての学問』／スノー『二つの文化と科学革命』／シュレーディンガー『生命とは何か』／ブッシュ『科学ーこの限りなき前線』／小林傳司『トランス・サイエンスの時代』などの作品から抜粋した全14テキスト

※テキストは本セミナーのために厳選しましたので、他のセミナーのテキストとは異なります。

【対象】 企業、行政、NPO など広い分野から、役員・管理職・次世代のリーダー候補の参加者を募ります。ただし対話という性質上、原則 20 名を限度とさせていただきます。

【参加料金】 正会員企業、フェローズ会員 : 27万円/人
賛助会員企業、アспенセミナー卒業生 : 29万円/人
非会員企業 : 31万円/人 (各税別)

【お支払方法】 参加確定後、請求書をご送付いたします。請求書に記載の期日までにお振込みください。

【申込締切日と参加確定について】

- ・ 一次締切：8月3日（月） 二次締切：9月2日（水）
 - ・ 一次締切の翌営業日に参加確定の通知をメールいたします。
 - ・ 参加者ご派遣の意向があり、該当者がまだ確定していないという場合、ご予約を受付けます。一次締切以降も、二次締切迄の予約の継続は可能ですが、予約継続中に予約をリリースされた場合は、予約リリース料を申し受けます。
 - ・ 一次締切以降は、申込みと予約以外の残席について、定員に達するまで、もしくは二次締切まで、先着順で受付け、順次参加確定の通知を差し上げます。
- ※ 一次締切の時点で予約も含めて定員を超えた場合は、会員企業様を優先いたします。

【テキスト送付時期】 参加確定の通知の際にお知らせします。

【キャンセルについて】

お申込み後キャンセルされる場合につきましては、以下のとおりキャンセル料金を頂戴いたしますので、ご了承ください。

【キャンセル料金】

参加確定後	¥30,000（税別）
セミナー開催 45 日前～開催 8 日前 （開催日初日を含まず起算）	参加料金の 3 割（税別）
セミナー開催 7 日前～開催 2 日前 （開催日初日を含まず起算）	参加料金の 4 割（税別）
開催日前日および開催日当日	参加料金の 5 割（税別）

※参加確定通知後テキスト未発送の場合は、2万円（税別）を申し受けます。

※本セミナーは、事前に多量のテキストをお読みいただいたうえでご参加いただきます。

そのため、キャンセルが発生しても追加募集することが難しいこと、また外部施設を会場としていることもあり、施設に対する違約金も発生することから、お客様のご都合によるキャンセルには、上記のようなキャンセル料金を設定させて頂いております。何卒ご了承ください。

【予約リリース料金】

一次締切日以降に予約を取り消した場合は予約リリース料 2 万円（税別）を申し受けますので、ご了承ください。

【開催中止の場合】

セミナーへの参加お申込人数が原則 12 名に満たなかった場合には、また、台風等の自然災害時に交通機関の運行状況等を考慮した結果、やむを得ずセミナーを中止する場合がございます。中止を決定した場合には、すでにお申込みいただきましたお客様には速やかにご連絡を申し上げ、また、ご入金された受講料を返金させていただきます。

参加ご希望の方は、添付の申込書にて、必要事項をご記入の上

FAX： 03-3405-1668 または電子メール mimura@aspeninstitute.jp にてお申込み下さい。原則定員 20 名とさせていただきます。

参加の可否につきましては、申込み締切後にご連絡致します。

- ※ 本ご案内は、会員企業と過去のアспен・セミナー参加者の皆さまにお送りしておりますが、どなたでもご応募いただけます。
- ※ 万が一お申込み多数の場合は、会員企業からの派遣を優先させていただきます。
- ※ また、同一企業からのご参加は、人数を制限させていただく場合がございます。

詳しくは日本アспен研究所セミナー事務局に、できればメールにてお問い合わせください。

一般社団法人日本アспен研究所（三村）
〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-21 ハークス六本木ビル2階
TEL: 03-6438-9208
E-mail: mimura@aspeninstitute.jp / FAX: 03-3405-1668